ドウロ (Douro) 渓谷

について

写真: António Sá

ドウロ (Douro) 渓谷
ドウロ (Douro) 渓谷はその景観が見せる美しさと素晴しさゆえに、あっさり「魅惑の渓谷」と呼ばれても当然かもしれません。

川が海に流れ込み、ドウロワイン（テーブルワインとポートワイン）が丘陵の中腹で生産、消費されるポルト (Porto) から出発すると、さまざまな方法で**世界遺産**に登録されたこの文化的景観を知ることができます。車で、電車で、クルーズ船での観光はもちろん、ヘリコプターを使った観光もできます。何をとっても無関心でいることはできないでしょう。

最高の眺望を楽しめるビューポイント間を通るルートでは、北から南へ、またはその逆に川を横断する必要があります。しかし、道すがら、ドウロ川がポルトガルに流れ込む地点、ミランダ・ド・ドウロ (Miranda do Douro) にたどり着くまで、川の上の息を呑むような風景に見とれ、ブドウ畑、町や村を観光することができます。

ヴィラ・ノーヴァ・デ・ガイア (Vila Nova de Gaia) では、ポートワインが熟成するロッジへの観光から始めましょう。ここでは、このワインには少し苦味があることが分かります。ぜひこのチャンスを活かしましょう – この貴重な果汁を味わう方法が他にありますか？また、川に浮かぶ古いラベーロ (rabelo) 船を現在も見ることができます。この船は、さまざまなダムが建設されて川が航行可能になるまで、製造元である荘園 (quintas) からワインを河口まで運搬していました。

ペゾ・ダ・レグア (Peso da Régua) では、**ドウロ博物館** (Museu do Douro) でこの地域とワイン醸造を少し変わった切り口で紹介しています。南岸のさほど離れていない場所にある**ラメーゴ (Lamego)** は、北部ポルトガルでもっとも美しい都市の1つです。素晴しい青と白のタイル張りの階段は、**救済の聖母教会 (Santuário de Nossa Senhora dos Remédios)** に通じています。川の右手、**ピニャン (Pinhão)** では、葡萄の栽培を表現した古来のタイルが見事な鉄道の駅が必見です。

ポシーニョ (Pocinho) に到着する前に、南岸に迂回して**ヌマォン (Numão) 城**に立ち寄り、地平線の眺めるのもお勧めです。東に少し足を延ばすと、フォス・コア考古学公園 (Parque Arqueológico de Foz Côa) があります。ここは、屋外の岩のアートギャラリーで、世界遺産に登録されています。また、**ヴィラ・ノヴァ・デ・フォス・コア**には付属の**博物館 (Museu em Vila Nova de Foz Côa)** があります。

バルカ・ダルヴァ (Barca de Alva) に到着したら、**ドウロ国際自然公園 (Parque Natural do Douro Internacional)** に入りましょう。ここからミランダ・ド・ドウロ (Miranda do Douro) に流れる川が、ポルトガルとスペインの国境線になっています。この場所では、川の流れが狭くなります。高い急斜面の間を流れ、ポルトガルに入ると小さな国境の町にたどり着きます。

バルカ・ダルヴァ (Barca de

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

Alva)までの**ドウロワイン地区渓谷**
は、世界で最古のワイン原産地です。まず、川はこの土地を削って深い谷を彫り、それから人間が片岩の山脈を土壌や壁に変えて葡萄を植え、夏には緑の、秋には紅葉の色彩で一杯の土地にしました。時代から時代へ伝えられる知識をもって、人間は、ワインに欠かせない暖かさを葡萄の実に与えてくれる日光が葡萄の木に当たるよう、この台地を開墾しました。この独特なワインと地形が生まれたのは、この土地の果実と人間の労働があったからこそでした。

絶対のお勧め

> ワインツアーが用意されているワイン製造元の荘園のいくつかを見学

> ポルト (Porto) またはドウロ (Douro) 渓谷にあるワインホテルで一泊

> 葡萄の収穫に参加

> ミランダ・ド・ドウロ近くの環境保護リバークルーズに参加

> バルコス (Barcos)、ファヴァイオス (Favaios)、プロヴェセンデ (Provesende)、ウカニャ (Ucanha)、サルゼダス (Salzedas)、トレヴォエス(Trevões) のワイン醸造村を観光

ドウロ川を臨む5つのビューポイント

1 - サン・レオナルド・ダ・ガラフラ (São Leonardo da Galafura)
サン・レオナルド・ダ・ガラフラのビューポイントは、レグア (Régua) の近くにあります。ドウロ渓谷とマラオン (Marão) 山脈を一望する眺めを、作家のミゲル・トルガ (Miguel Torga) は「地質学的詩」と表現しました。
2 – キンタ・ド・ノヴァル(Quinta do Noval)
その恵まれた立地条件と変化に富んだブドウ畑の地形により、現在この土地はドウロを代表する場所になっています。ピニャン (Pinhão) 川の左岸にあるこの荘園は片岩の台地に広がり、家屋と同じ白に塗られた縞模様の一連の階段と、土地を横断する傾斜した道で分けられています。

3 –カサル・デ・ロイヴォス (Casal de Loivos)
これは、ピニャン (Pinhão) と渓谷を見渡す本物のバルコニーです。眼下には、川が村の周りを「S」字に流れています。BBCでは、この景観は世界で最も美しい6大景観の1つと賞賛しました。
4 – サン・サルヴァドル・ド・ムンド(São Salvador do Mundo)
サン・ジョアン・ダ・ペスケイラ(São João da Pesqueira) から数キロ離れた南岸の宗教的で神聖な土地、サン・サルヴァドル・ド・ムンドは、現地の伝統によれば、主に女性の巡礼者の目的地となっています。ここからはドウロが半分見渡せます。川は深い底を流れ、岩の多い急斜面のために蛇行しています。現在はヴァレイラ (Valeira)
ダムが建設され、18世紀後半までは航行ができないほどの障害であった有名な急流ではなくなっています。

5 – キンダ・ド・ヴァレ・メアン (Quinta do Vale Meão)
ポシーニョ (Pocinho)の近く、ドウロの右岸の緩やかな斜面に広がり、ユネスコに登録された地域の北端であるこの荘園の広大さと壮大さは、19世紀にポートワインの醸造に革命を起したその創設者であり神話化された人物、D. アントニア・フェレイラ (D. Antónia Ferreira) の偉業を象徴しています。このように見ると、この眺望にはドウロのエッセンスが集約されています。すなわち、美しさ、夢、伝説、そして河岸の片岩を耕作地に変える人間の創造力です。

車で行くドウロ

しかし、ドウロは単なるビューポイントではありません。自動車は川と周辺地域を発見するための優れた手段です。ですが、まずは、狭い曲がりくねった車道でのアップダウンの連続を覚悟する必要があります。
静かな町や村、カーブに沿って広がる葡萄円、レコンキスタの時代からの城があり、他にも、地平線を遠く眺めるために車を止める価値がある場所があります。

北岸では、ペゾ・ダ・レグア (Peso da Régua) から出発し、ドウロ渓谷を一望する高台を横断した後、アリジョ (Alijó) に到着します。アリジョからカラゼーダ・デ・アンジィンス (Carrazeda de Amsiães) まで進み、トゥア川 (Rio Tua) を渡ると、ヴィラ・フロール (Vila Flor) までEN214線を走ります。ヴィラ・フロール (Vila Flor) からトーレ・デ・モンコルヴォ (Torre de Moncorvo) までIP2線を走ると、フレィショ・デ・エスパーダ・ア・シンタ (Freixo de Espada à Cinta) を通ってEN220とEN221線でバルカ・ダルヴァ (Barca de Alva)へ到着します。
南岸では、ヴィラ・ノヴァ・デ・フォス・コア (Vila Nova de Foz Côa) とドウロの間、サン・ジョアン・ダ・ペスケイラ (São João da Pesqueira)を通り、EN222線でピニャン (Pinhão) まで戻ります。この河岸では、次のように2度迂回することを是非お勧めします。キンタ・ド・ヴェスヴィオ (Quinta do Vesúvio) まで下るEN222-4線と、印象的なヌマォン (Castelo de Numão) 城へつながるEN324です。
このツアーは、ドウロを一望する素晴しい景観を約束してくれます。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

船で行くドウロ

ヴィラ・ノーヴァ・デ・ガイア (Vila Nova de Gaia) の埠頭から出発して、バルカ・ダルヴァ (Barca de Alva)までドウロを船で移動することができます。所要時間は目的地までの距離により異なります。あるいは、レグア (Régua) など他の場所からでも出発することができます。船と電車を組み合わせたツアーです。船上、または川の近くの荘園や領主の邸宅内に宿泊し、ポルトガルのおもてなしの伝統を体験するのもよいでしょう。このツアーには、食事とワインの試飲をテーマにしたこの地域のランドマークを観光する予定でいっぱいのプログラムが含まれています。
葡萄の木で覆われた、ドウロ渓谷の美しい段々畑は、バルケイロス (Barqueiros) 付近からバルカ・ダルヴァ (Barca de Alva) まで広がっており、最も印象的な、人の手で創られた田舎の風景の1つを眼にすることができます。

19世紀までは、この川は内陸に入る主要ルートであり、遠い内陸部から生産物を運ぶ輸送手段でした。航行は困難かつ危険なもので、ラベーロ (rabelo) 船はこの天然の障害物を横断することができる唯一の船でした。船頭の頑強さと技術が、この川の航行と大きなワイン樽の運搬を可能にしました。事故が起きた場合は浮かぶことができるように、これらの船は満載されることはありませんでした。
現在では、ロベーロ船に短時間乗ることもできます。忘れられない体験になるでしょう。

電車で行くドウロ

電車での旅行がお好きであれば、20世紀初頭のようにドウロ川沿いを走ることを是非お勧めします。
この過去との再会の旅では、蒸気、ディーゼルの客車、そして蒸気機関車が主役です。時速30 kmで運行し、町々を結び、有名なポートワインの配達に一役買った時代の記憶を留めています。
レグア (Régua) とトゥア (Tua)の間にあるドウロ線沿いの川を進むことができます。レグア駅はこの地域では最も重要でした。また、ピニャン (Pinhão) 駅はこの国で最も魅力的な駅の１つで、タイル張りのファサードがあります。
また、ポルトから通常の電車でドウロ線に乗ることもできます。あるいは、電車と船のプログラムを組み合わせることも可能です。２つのオプションでは、それぞれを補完するアプローチを提供しています。

ヘリコプターで行くドウロ

ドウロは空中からも見つけることができます。ポルトから出発する旅で、最初は市の歴史的中心地と、南岸に続く６つの橋の上空を飛びます。短時間でドウロ川上流の真ん中に出ます。
ポルト (Porto) の河口とバルカ・ダルヴァ (Barca de Alva) の間を飛行するプランは、ヘリコプターと、豪華なヨットで川を下る旅を組み合わせたものになります。このツアーにはドウロの荘園での昼食が含まれており、定員は6名です。

お役立ち情報 / 出発地

ドウロの歴史ある電車：www.cp.pt
歴史ある電車の乗車と、国内の各地から出発する往復の旅程を組み合わせることができます。歴史ある電車の利用者のために、ホテルと駐車場が提携を結んでいます。
この地域は、ポートワインのルート沿いからも観光できます。www.ivdp.pt
さらに見る： visitportoandnorth.travel

出発地：
N222線はドウロ川の南岸を通っています。
電車： www.cp.pt
コーチ– Rede Expressos: www.rede-expressos.pt
空港: フランシスコ・サ・カルネイロ空港 (ポルト) (Porto)

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com